

## 全国学テの「事前対策」は減少、一方で、オンラインでのトラブルは増加！

### 各テスト結果が、人事評価に反映されることはあってはならない！

市教組は全国学テ学習状況調査（以下、全国学テ）をはじめ、小学生すくすくウオッチ（すくすく）や小学校学力経年調査（経年）、中学生チャレンジテスト（チャレンジ）など、多くのテストが実施されていることについて学校現場の状況を把握するため、この3年間、アンケート調査を実施しています。

小学校では「全国学テ」と「すくすく」が同時期に実施されることで、子どもたちにとっても教員にとっても、大きな負担となっています。また、今年度はほとんどの学校が、児童・生徒質問紙調査をオンラインで実施しましたが、機器の準備の大変さや通信の不具合について多くの学校から意見があがりました。

市教組はこの調査結果を教育委員会に提示し、テストの精査について引き続き協議を行います。

なお、調査結果については以下のとおり。（ ）は昨年度の割合です。

#### 1. 「全国学テ」の事前対策について

- ① 行った 41% (54)
- ア 教員が必要と感じて 34% (45)
- イ 校長の指示で（市教委の要請あり） 3% (1)
- ウ 校長の指示で（市教委の要請は不明） 4% (7)

#### 実施時期（数値は「行った」内での割合）

- ア 前年度3学期 13% (22)
- イ 春休みの宿題として 9% (9)
- ウ 今年度4月 79% (69)

#### ② 行わなかった 59% (47)

- ア 例年行っていない 54% (41)
- イ 例年しているが、今回は行わなかった 5% (6)

- ・対策をしないと難しいと感じる。
- ・テストの点数を左右するものが学力だけでなく、問題慣れや時間配分などが関わるので、過去問をすることは必要かなと思う。
- ・解答をしていくことに、とても技術が必要。（ふだんの学習の仕方やテストの形式とあまりに違うので）
- ・教科書の内容（日頃の学習のやり方）と合っていない。
- ・対策をしてテストを受けて点数が上がったとしても、それが本当に学力と言えるのか。
- ・「全国学テ」や「経年」に向けて、それらのテストにだけ特化した対策をしている場合、何のための調査なのかブレるのではないか。

#### 2. 児童・生徒質問紙調査について

- ア 回答用紙で行った 10% (44)
- イ オンラインで行った 90% (55)

- ・接続不良のため、オンラインでの回答ができていない生徒が多数。
- ・1クラスずつ時間をずらして実施したにもかかわらず、午後からインターネットの接続が切れてしまい、当日中に終えることができなかった。
- ・回線の状況が悪くて全くつながらず、指定の時間にできなかった。別で時間を取って行った。
- ・全クラス同時にやるとつながりが悪かった。
- ・各クラス3分の1の生徒しかできず、後日、放課後に残したり、自宅で実施することとなり、生徒にも大変申し訳なかった。
- ・タブレットの動作が遅い。
- ・QRコードの読み取りにとっても時間がかかった。（端末側のカメラ機能の問題）
- ・QRコードでの読み取りがうまくいかなかった時、個人番号を入力したが、その番号が本人と一致しているか、担任が確認することが難しい。
- ・「すくすく」で「全国学テ」の表紙QRコードを使用するため、児童が間違っ一度に両方したり、逆をしたりした。
- ・「すくすく」と関連付ける作業がややこしい。
- ・「全国学テ」と「すくすく」のリンクがめんどくさい。どちらかに合わせてほしい。
- ・「すくすく」と「全国学テ」で、似たような質問紙（アンケート）をやりました。リンクしているのであればアンケートは1回にしてほしい。
- ・質問が多すぎる。設問の意図が理解しにくい。
- ・質問が多すぎてかなりの時間を要した。「すくすく」の質問紙もあったので、子どもたちはかなり疲れていた。
- ・100問近くのアンケートに必要性を感じない。
- ・提出したかどうかの確認をしたのに、人数が合わないことがあった。
- ・教員が確認できないので、「担任に提出」など進捗が分かるとうい。
- ・きちんとできているか、紙で確認した方が早い。
- ・ルビうち生徒への対応がとても煩雑で、様々なところの問い合わせたが、きっちりとした回答がなく、ギリギリまで対応できなかった。

- ・外国籍児童やルーツのある児童には、翻訳サイトを使って実施したが、多くの時間を費やした。
- ・タブレットの故障などで使えない児童の対応。
- ・転入でタブレットが足りないという状況があった。
- ・最後の画面が出ない等。
- ・解凍後の画面スクロール一番下の「終了」ボタンのクリック忘れが多かった。
- ・内科検診と日程がかぶったため困った。後日、オンラインでしようとした時、できなかった。後日にできるとのことだったが、その連絡がなかったので困った。
- ・マニュアルと違うので、本当に合っているのか不安。
- ・ただでさえ忙しい中、分厚いマニュアルを見て事前の設定をしなければならないこと自体が大きな負担だったが、大阪市の設定の問題で、文科省のマニュアル通りにはうまく進めることができず、問い合わせ窓口で電話してもなかなかつながらず、あげく、「それは大阪市の教育委員会に聞いて下さい」とたらい回しにされ、猛烈な怒りを感じた。一体、誰のためにこんなことをやっているのでしょうか。

#### 3. 経年変化分析調査について

- ア 抽出校である 1%
- イ 抽出校ではない 89%
- ※無解答・わからない 10%

#### 4. 「全国学テ」や「経年」、「すくすく」、「チャレンジ」の結果が、教員の評価に影響していると感じますか？

- ア 感じない 68% (61)
- イ 感じる 29% (30)
- ウ 実際にリンクしている 1% (4)
- ※無解答 2%

- ・運営に関する計画で数値目標を設定しているので、日々の授業やテスト実施の際に、テストの点数を意識せざるをえない。
- ・運営の計画に、数値として指標などに書いているので、評価に直結している。
- ・人事評価で「具体的な数値を示す」とあるので、指標にはなりやすい。自分が指標に設定しなければよいのですが。
- ・目標で数値を求められているので、テストの結果を目標にしている教員も多数いる。ということは、必然的に評価に影響しているように思う。

- ・テストが教員の評価に影響しているため、過去問をたくさん解かすなど、本来の学校での学びよりも、単にテストのためにひたすら過去問で対策することに力を入れるようになってしまっている。
- ・大阪市の教育振興基本計画や運営に関する計画に結果が反映されるということは、評価に少なからず関係しているのではないのでしょうか。校長等評価者によると思いますが。
- ・影響は感じないが、評価の数値にしていることもある。
- ・気にしている者もいなくはない。
- ・実際にリンクしているんちゃうの？って疑ってしまう。
- ・テストの結果によって「運営の計画」やそれに伴う「人事評価シート」の記入について数字が影響しているので、非常に問題があるし不快である。3科・5科の教職員はテストについて問題があると思っている。
- ・本校では感じないが、影響している学校もあると思う。
- ・「経年」が昨年と比べて、点数が上がったり、特に下がったりしている場合は責任を感じる。上がった時に、職員室で「〇〇先生はよくやってくれているから」などの声が聞こえることもある。
- ・最初から学力がしんどい学校はたくさんあるが、地域保護者は「チャレンジ」の結果を重要とし、教員もそうなっている。正直、しんどい。
- ・保護者・生徒・地域の学校評価に関係してくる。
- ・今まで「チャレンジ」の結果が良い学校に勤務していた。その当時は感じたことがなかったが、現勤務校になって、何となくプレッシャーを感じる。実際、良い結果なので悪い思いはしていませんが、結果が悪かったときに評価が下げられるのかなと思った。（テスト結果が直接の理由かは分からないが、授業力の評価が高かった）
- ・直接リンクしていることはないが、結果は意識せざるを得ず、間接的な影響を感じる。
- ・学力向上支援チーム事業の重点支援校になっているため、教員の研修や授業研究（センターから指導に来る）が1年に12回になっている。指導力向上を意図しているとは思えない。
- ・本校ではあまり評価には関係していない。前任校では「チャレンジ」を人事考課の数値目標として書いている人もいたようです。
- ・今の管理職では、評価はあってないようなもの。
- ・管理職によるのでは？
- ・そんなことがあったら大変。

- ・評価に影響が出るようなことがあれば、とてもしんどい。
- ・「全国学テ」や「経年」を評価に使うのもおかしい。
- ・教員は責任を感じるが、評価に影響しているとは思えない。
- ・経年比較し、明らかに結果が上がったり下がったりした場合は、評価の資料としてもよいと思う。
- ・「全国学テ」は6年担任の精神的な負担が大きい。
- ・以前の学校で夏休み前から対策をしていた新任の先生が、実施後、「くっそー、あれだけやったのに、ヤマが外れた」と肩を落としていた姿を見て、教育の歪みを感じました。現場を萎縮させるだけ。
- ・「チャレンジ」の結果をめぐり、特に若い教員たちで、教科の特性、地域性にかかわらず、大阪市平均以下だったら、それがマイナス～点なのか職員室で話題になる。子育てのため勤務時間外でなかなか授業準備できず、平均よりマイナス9点だった自分は職員室に居づらかったり、この職を辞めようかと本当に考えた。校長もネタのように「チャレンジ」の結果を扱っているように感じた。低い点の教員は、人によってはそれでいじられたり、教員の資質を疑われないか気になる。

## 5. その他、全般的に各テストに際しての問題点や課題、ご意見等

- ・「全国学テ」の数学に関しては計算問題もなく、学力の低い生徒にとっては何を調査するのか、わからない。
- ・今年度の「全国学テ」の質問紙調査をオンラインで行ったが、4月17日の実施日に間に合うように学習者用端末を準備するのに、連日遅くまでかかった。充電器の数が端末の数しかないので、クラス替えのたびに、保管庫内の充電器を調整する必要がある。卒業生から新入生への端末の移譲作業も、紛失や故障がないかどうかの確認を行い、600台を超える端末の管理をするのに、教員が授業や学校経営の業務と並行して携わることには限界がある。5月に入ってからICT支援員が派遣されるだけでなく、保管庫の調整や端末の管理、卒業生端末のプロファイル削除といった作業は業務範囲外だとのことで非常に困っている。ICT機器の管理は、一般的に誰でもできる業務ではないので、現場の教員のスキルに頼った運営ではなく、支援員の常駐が求められる。
- ・ゆとりのある予定だとありがたい。
- ・新年度の慌ただしい中での実施はとても負担になっている。
- ・点数が全てですか？という思いがある。
- ・年度始め、修学旅行の取り組みとも重なり、「全国学テ」の時期が悪すぎる。
- ・いらぬ。時間のムダ。授業時数ももったいない。

- ・テストが多い。「すくすく」は、あまり意味や効果が分からない。「全国学テ」は前年度の教員の教え方が影響するため、それで学力が低くて、教員評価を低くされても困る。
- ・6年生は「全国学テ」「すくすく」の2つのテストがたて続けにあったので、子どもも教員もかなり疲弊していた。
- ・「全国学テ」と「すくすく」の同日実施は体力的に難しいのではないか。
- ・実施時期が早く、まだクラス作りがきちんとできていない中で、こんなテストに時間を取られるなんて信じられない。
- ・テストの要綱を管理職や担任が把握しなければならず、それにかかなりの時間を要した。
- ・「全国学テ」「経年」etcのテストにかかる事務作業が煩雑である。
- ・学校にもよると思うが、本校はそれほど学力に対する期待が保護者にも子ども自身にもなく、テスト結果がどうだということは気にしないので、やる意味が全くない。
- ・欠席者対応など、テストに関わる業務負担は予想以上にある。
- ・学級には必ず生活背景や学力的にしんどい子どもが存在するが、そのような子どもたちにとって、これらのテストが持つ意味をいつも考えてしまう。(ほぼ無解答の子どもたち)
- ・「全国学テ」の学校別結果公表は文科省の方針から逸脱しているのではないのでしょうか。
- ・テストの目的が明確ではない。
- ・特別支援学級在籍の児童にとって、苦痛でしかない1日になってしまう。休み時間もいつものようにのびのびと遊びに行ったり、友だちと話したりするような、いつもの日常がなくなってしまう。
- ・特別支援学級の子どもたちは苦痛の1日になる(抽出している子どもにしても、ほぼ1日友だちと分断される)ので、そういったマイノリティーの子どもたちのことも考えてほしいと思う。
- ・「全国学テ」の日は委員会活動などが滞る。1年生は給食を6年生に運んでもらっている時期なので、学力調査のためその日は1年生も運ぶこととなり、まだ十分に学校生活に慣れていないので大変である。
- ・「テストを実施する時間に他の教育活動ができないことが問題」と教職員が実感しているも、現状打破できないことに疑問を感じている。真の子どもの生きる力は、テストで養われるものではない。
- ・問題文を読み取る力のない子が質問してくるので、その対応が大変だった。

- ・拡大テストはページがいたりきたりして、扱いづらかった。
- ・「全国学テ」「すくすく」で問題が解けず(問題の文字の量が多くてパニック&リタイアの児童が続出)、子どもが落ち込んだり肯定感が低下したりしている。
- ・毎年、事前の準備などに膨大な時間と手間がかかる中、悉皆調査を毎年する必要があるとは思えない。特に今年は生徒質問紙調査をオンラインでやることとなり、トラブルが頻発したが、そのたびに相談窓口に電話し、つながらなくて長時間待たされ、たらい回しにされるなど対応もひどかった。このような形でやるのであれば、専門の支援員を全校に派遣するなどの対応をしてもらわないと、管理職や担当教員の負担が大きすぎる。文科省や教育委員会の方には、ぜひ一度、現場がどれほど負担を強いられているか見に来てもらいたい。
- ・「すくすく」は不要。なぜ大阪市の6年生だけが、年に3回も同じようなテストを受けなければならないのか。
- ・「すくすく」の必要性が感じられない。「すくすく」か「経年」どちらかで良いと思う。
- ・12月に「経年」で調べるのに、4月に必要なのか。
- ・「すくすく」の解答用紙の表紙をきちんと保管して次年度へ引き継いでいく必要があるが、欠席や遅刻の多い学級の担任は、その管理が大変である。実際、1名分見つからず、何時間も探し続けた。
- ・毎年、1年位前に次の年度の契約をしているため、止めようにも止められない状況があるように思う。業者のよい予算源となってしまっているのでは。
- ・「すくすく」の教科横断型問題の文章が長く、外国にルーツのある子どもたちには内容の理解が難しく、翻訳サイトを使ってもたいへんだった。他の教科でも時間が足りず、ほぼ無解答になっていた。
- ・「すくすく」の結果に書いている文言が癪に障っている。
- ・教育効果があると思えない。教育現場の政治的利用。
- ・「経年」の社会科について、選択問題があるが、学校で選択する問題を統一するようにとあった。選択問題の意味が薄れる。
- ・「全国学テ」に欠席は仕方がないとしても、「経年」の欠席時には他の時間を使ったり、放課後にしていたこともあった気がする。
- ・各テストに必要性を感じない。
- ・「チャレンジ」によって進路の成績に影響するのが問題。大阪市ルールでは3以上/4以上/5が1回のテストで決まる。それでいいのか。
- ・「チャレンジ」は廃止。本来の評価になじまない。
- ・個人のテスト結果で学校の評定平均が決まるのはおかしい。

- ・「チャレンジ」で学校の評定の範囲が決まること。学力の厳しい生徒が受験しなければ、その生徒が救われるという仕組みに問題があると思っている。生徒の中には「私、受けない方がいいやん」という生徒が出てきている。そんなテストで学校として評価されることが問題だと思っている。
- ・「チャレンジ」の結果、評定平均の範囲が設定されるが、範囲内だからといって上限ぎりぎり一杯まで評価を調整することが当たり前になっている。大阪府か全校で上限を付けるのが前提となれば、生徒に不適切に高い評価がつくことになり、上限である「5」評価の価値が相対的に下がってしまう。評定平均の範囲が広すぎる点と、範囲内の上限につくように内部で調整されている点を放置している状況は問題である。
- ・音・美・技家・体の先生の話の聞いていると、「チャレンジ」の結果を入れることで、評価が思うようにつけられないという方が非常に多い。
- ・本校は「チャレンジ」について優秀で、昨年、速報で「4.5」でした。(その後「4.4」に。)単純に言って半数の評定が「5」で、残りの半数が「4」。音楽の先生は大変モヤモヤした気持ちを抱えていて、新任でしたが大いに意欲を削がれていたように見えた。「授業やる意味って?実技テストやる意味って?」と相談も受けた。どうアドバイスすればいいのか分からなかった。「制度に問題あり」と声を大にして言ってください。
- ・相対評価から絶対評価に変わったのに、学校の出す評定が信用されていないと感じる。高校側も、あまり中学校の評定を重く扱う学校がなくなっているのではないかと感じる。
- ・「チャレンジ」の国語のテスト範囲が、他の教科と違ってあいまいな表現であるため、毎年生徒や保護者から質問される。文法分野は履修していない範囲が出題されると解けないので、具体化してほしい。また、国語はテスト時間内に終わらない生徒が少なくない。出題量・テストの文字数が適切でないと思われる。
- ・「チャレンジ」の範囲が広すぎて、授業を急がなければならなくなってしまう。(範囲を少なくしてほしい。社会科)
- ・テストのためや入試のために勉強しているのではない。
- ・本来の教育とは方向が大きすぎていく感じがしている。テスト、テストで必死になるのを何とかしたい。
- ・英語科のG-T-E-Cも現場の負担が大きすぎる割に効果は見えない。
- ・英語科の「話すこと調査」はタブレットを含めた準備があまりにも負担が大きく、その割に生徒へのフィードバックは少ないため、何のためにやっているか正直、分からない。